平成21年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ニギス

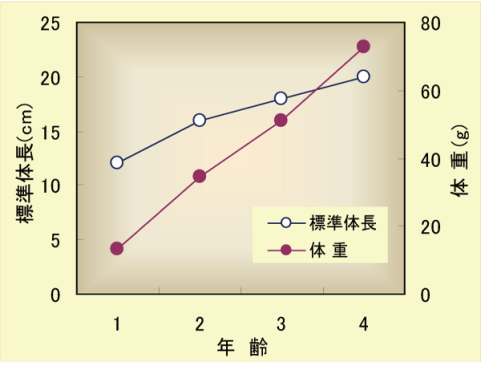
学名　*Glossanodon semifasciatus*

系群名　日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所

生物学的特性

寿命:　5歳
成熟開始年齢:　1.5歳
産卵期・産卵場:　周年産卵、産卵のピークは春季と秋季、産卵場は不明
索餌期・索餌場:　周年、水深100～200m
食性:　オキアミなどの浮遊性小型甲殻類
捕食者:　ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等が報告されているが、詳細は不明

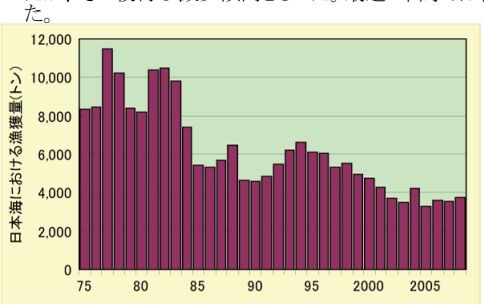


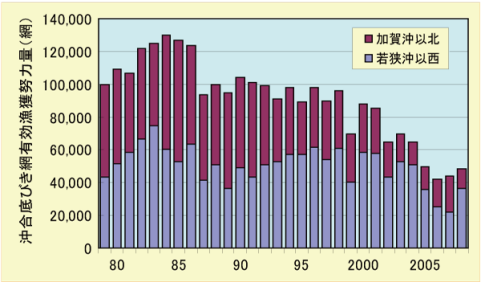
漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網（沖底）と小型底びき網（小底）で漁獲されている。日本海では、新潟、石川、兵庫、島根の4県での水揚げが多く、これら4県で日本海側総漁獲量の約9割を占めている。

漁獲の動向

総漁獲量の推移をみると、1975～1983年までは10,000トン前後で推移していたが、1984年以降減少傾向となり、1990年には約4,600トンとなった。1991年以降は増加に転じ、1990年代半ばまでは5,000～6,000トンで推移していたが、その後再び減少傾向となった。最近5年間では横ばい傾向にあり、2008年はほぼ前年並みの3,777トンであった。



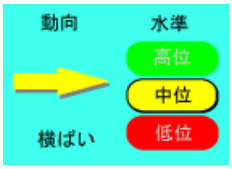


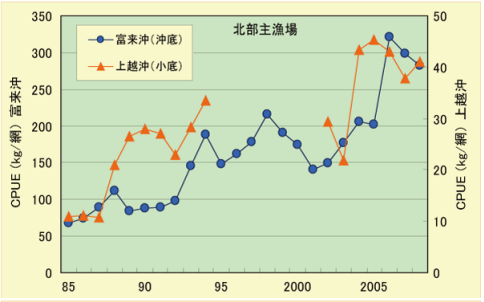
資源評価法

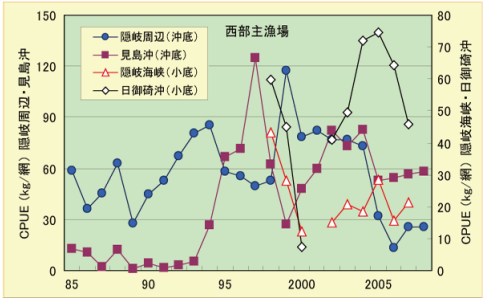
海域全体の沖底（1そうびき）の統計値（資源密度指数、有効漁獲努力量、有漁漁区数）を用いて資源評価を行った。また、主漁場の漁獲動向を参照した。

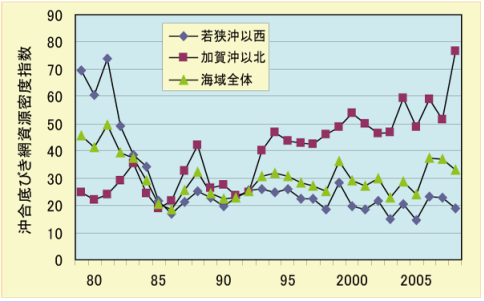
資源状態

海域全体の沖底（1そうびき）の資源密度指数を見ると、近年は中位水準ではあるが比較的高い値を示しており、資源状態は良好であると考えられる。各主漁場を見ると、北部主漁場（新潟、石川）はひと網あたりの漁獲量も良い値を示している。また、加賀沖以北の沖底資源密度指数も高い値を示しており、北部の資源状態は良好であると考えられる。西部主漁場（兵庫、島根）では、一部主漁場で資源状態の悪化が懸念されるが、その他では資源状態の悪化は見られず、若狭沖以西の沖底資源密度指数も横ばいで推移していることから、西部海域全体としては中位水準程度と考えられる。









管理方策

海域全体の沖底(1そうびき)の資源密度指数を見ると、近年は中位水準ではあるが比較的高い値を示している。また、沖底の有効漁獲努力量、有漁漁区数も低い値となっていること、主漁場における曳き網回数も過去に比べて減少していることから、漁獲圧を現状より高くしなければ、資源状態は悪化しないと判断した。しかし、一部主漁場で資源状態の悪化が懸念されることから、今後の状況によっては、漁獲圧引き下げなどを海域ごとに検討する必要もあると考える。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,600トン	1.0Cave3-yr	ー	ー
ABCtarget	2,900トン	0.8・1.0Cave3-yr	ー	ー

資源評価のまとめ

- 海域全体では資源状態は悪くなく、漁獲圧も低い状態にある
- 一部主漁場で資源状態の悪化が懸念される

管理方策のまとめ

- 海域全体では現状の漁獲圧を維持しても良い
- 今後の状況によっては、海域ごとに漁獲圧の引き下げなどを検討する必要もある

資源評価は毎年更新されます。